

第 2 部

高校生と大学生によるワークショップ

【ファシリテーター】

高須 佳奈（島根大学地域未来戦略センター）

中野 洋平（島根大学地域未来戦略センター）

【参加者】

島根大学学生

島根県内の高校生

ワークショップ

「地域の未来を考えるー未来を創る力とはー」

日 時 平成29年11月3日(金)

14:40~16:00

場 所 パレットごうつ 会議研修室

○司会 これからは高校生と大学生が主役のワークショップです。ファシリテーターは、島根大学地域未来戦略センターの高須佳奈講師、中野洋平講師です。

今、高校生35名、大学生22名が10班に分かれて、各班5~6人ずつで座っています。高校生は島根県内の高校から35名、大学生は全て島根大学COC人材育成コースの1、2年生で、22名です。これから、80分のワークショップをします。大人の方は、適度な距離感で周りで見ただけだと思います。評価をお願いしている先生方には、どうぞよろしくお願いします。

では、高須先生、お願いいたします。

【ワークショップのねらい】

では、改めまして、地域未来戦略センターの高須といいます。本日はよろしくお願いします。

さきほどまでの、先生方の講義とか、高校生、大学生の発表を聞きながら、それをいかに自分ごとにしていくのかということで、このワークショップを開催させていただこうというふうに思います。大体、終わりの時間は4時、4時までやりたいかなと思います。

今日のワークショップのねらいは、本日のシンポジウムが、未来をつくるということでシンポジウムのテーマが出されていました。一方、先ほどのパネルディスカッションの中でも、市長さんのほうから、こういう力が必要だよというようなちょっとヒントめいたことも出てきましたよね。このワークショップでも、命題としては、未来を創造するために必要な力って何だろうかということについて考えていただきたいと思います。

いろんな考え方があると思います。でも、一つの方向性として、次の3点を挙げることもできるのではないかなというふうに思います。どれもきっと聞いたことある言葉ばかりですね。一番左のところに「主体性」と書かせていただきました。真ん中のところに、「協働する力、協働性」。また、一番右のところに、「多様性の理解」ということです。

このワークショップのグループ構成、メンバー構成は、きっと初めて会ったっていう高校生同士、また、大学生同士でもなかなか専門の違う学生同士が一緒になってるんじゃないかなと思います。このワークショップでは、先ほど申し上げた三つの力を伸ばすことに意識を置いてみたいというふうに思います。

【三つの力を伸ばすことを意識しよう】

でも、主体性ってどうやって伸ばすんだろうとか、協働する力ってどうやって伸ばすんだろうって考えること、あまりないですね。この伸ばすって簡単に言うんですけど、すごく難しいんですよ。すごく難しい。何で難しいかっていうと、主体性って言われても、何となく抽象的ですよ。これができればとか、そろばんは何の計算が何分以内にできれば何級ですよみたいな、それとは全く違うんですよ。すごく抽象的で、それぞれ人によっても伸ばし方が違うんじゃないかということです。じゃあ、その伸ばし方って、とってもわかりにくいということになりますよね。でも、何かつけなきゃいけない力だということです。



では、この伸ばし方がわかりにくいっていうこと、やっぱりこれ問題かなということで、少し手助けするとい意味で、今日、皆さんのお手元にはピンク色の紙があると思います。こういう紙、ループリックというふうに言いますね。もしかしたら、もう高校生でも使ったことあるよっていう人がいるかもしれません。大学生は、ほとんどが一回は使ったことがあると思います。このループリックとは、成功の度合いを示す数段階の尺度と、それに対応するパフォーマンスの特徴を記したもののから成る評価基準表です。よく見ていただくと、例えば一番上のところ、「多様性を理解する力」。0段階のところでは、右側の1から3のどれにも当てはまらない、当てはまらなかった、少し右見ていくと、1段階目はこんなことですよ、2段階目は、3段階目はというふうに、成功の度合いが一つの尺度として示してあります。今日は短い時間のワークショップですけども、ぜひこのループリックを使って、短い時間で自分が何ができるようになったのかな、今まで気づかなかったけども、こんな力が自分にあるじゃないかというところに気づいてもらえればというふうに思っています。

【ループリックで自己評価をしてみよう】

では、早速ループリックを使ってみましょう。まず、ビフォーのところを記入していただきたいなと思います。下のところに、自己評価、ワークショップをする前、三つの力は何の段階にあるのでしょうか。ちょっと時間をとりますので、自分で考えてみてください。なかなか自分のことを評価するのが難しいと思いますけれども、挑戦してみてくださいね。一番初めなので、ゼロだって言っても全然恥ずかしくないですよ。

では、多くの人がそろそろ自分の評価を書き終えましたね。いいですよ、自分の評価だからね。皆さん、机の上では同じ紙が5枚、6枚とあります。人のとまざると困りますので、右上のところに名前を書くところがある

と思います。もう評価終わったよという人は、名前を忘れずに書いておいてくださいね。大丈夫ですか。

じゃあ、皆さん、スタートラインに立てましたね。きょうは、このワークショップで、先ほどの三つの力を少し意識しながら活動に参加していただきたいというふうに思います。では、一旦はループリックを裏返して、ちょっと横に置きましょう。

【ワークショップのテーマ】

それでは、ワークショップのテーマを発表したいと思います。きょうは大学生と高校生と一緒にワークショップに参加しますが、実はこのワークショップのテーマ、大学生にも内容は知らされていません。ワークショップのテーマは、「地域の幸福度をはかる方法を考える」です。いいですか。すごく大きいテーマが来ましたね。

【ワークショップの流れ】

では、ワークショップの流れについて説明しますね。

- ① まず、初めて同士のグループですから、ちょっとまだ緊張があると思います。「ほぐす」という意味で、自己紹介をしてもらいたいと思います。自己紹介のやり方は、あとで説明します。
- ② その後、一人でブレストをやっていただきます。「一人で始める」ということ。
- ③ もう一回ブレストをします。これは、チームでやっていただきます、「集めて、つくり出す」という過程です。
- ④ 最後、「閉じる」ということで、全体でまとめます。

大体、足すと60分間なんですけど、まあまあいいぐらいの時間になるんじゃないかなというふうに思います。

【自己紹介】

それでは、まず、自己紹介を準備していたかどうかと思います。皆さんのテーブルの上にいろいろなものが置いてあると思います。トレイの中に自己紹介用のカードがあります。一人1枚配ってください。また、チャックつきのかばんの中にマジックが入ってると思うので、マジックも一人1本当たるように準備していただけますか。



必要なものが手元に渡りましたか、。足りないってところないですか。大丈夫ですか。

今から自己紹介というと、私はどこどこ高校の誰それですっていうとその後が続かないので、ちょっと簡単な自己紹介ツールをつく

ってきました。手元にオレンジ色の、ちょっと貸してもらっていいかな、紙がありますね。吹き出しが、「実はほにゃららが自慢、すごい、魅力」の「どこそこ出身、誰それです」。ただし、自慢、すごい、魅力の修飾語、被修飾語は皆さんの出身地域、俺のお母さんがすごいとかじゃなくて、皆さんの出身地域の自慢、すごいとこ、ここ出身の誰それですっていうふうにとちょっとフレーズを考えてもらいたいと思います。氏名、所属、学年を書くとところがありますので、今から、短いですよ、3分くらいで考えてください。

では、用意スタート。「松江といえばほにゃらら」みたいなのを。……残り1分ほどになりました。いいんです、格好よくなくてもいいんです。いっぱいあり過ぎて選べないんだと思う。

では、そのあたりで手をとめていただいていいですか。こういうツールをつくるのも私、大好きなのでよくデザインしますけども、このように立てて使っていただくと、そうですね、机の上に立てて使っていただくと、後々、ディスカッションするときとかによいのではないかな、と思います。

では、順番は大学生のほうに任せますから、ちょっとグループの中で自己紹介タイムをとりたいと思います。3時までには終わるかな。用意スタート。いいですね。拍手が出るのはいいですね。

全てのグループが終わるまで待つので、終わっちゃったっていうところは雑談をしてもらっていいですか。大体終わったかな。

では、皆さん、結構地域自慢ありますね。何か大学生なんかもう話し出したらとまらないみたいな、愛があり過ぎてっていう人がちょっと若干多いのと、高校生はきっと、なかなかどれに絞ればいいのかわからないっていうとこで空欄の人がいるかもしれませんね。

【一人で考える】

この後、始めるということで、まず、一人で考えてもらう時間というのをしっかりと

ろうと思います。いいですか。一人ブレストを始めます。ブレストのテーマは、もともとあった地域の幸福度ををはかるには、地域の幸福度指標を考えるということなんですけれども。

一人ブレストって初めてだと思いますので、こういうことしますよ。つまりが、一人で考える時間なんですけど、考えたことを付箋に書いていただきたいと思います。ただ、付箋を使うときのコツがあります。こういうワークショップって、よく付箋を張り出して格好よくやってるイメージありますよね。そういうところで、使えるコツがたくさんあります。

- ① 例えば、字ははっきり大きく太く書いてください。だから、こういうときにシャーペンで弱々しく書くのはちょっとよろしくありません。
- ② 次に、1枚1アイデアをお願いします。1枚1アイデア。例は、ゆで卵、これ、食堂のメニューをブレストするときの例を持ってきちゃったので、ちょっとそんなのになってますけども、1枚1アイデアを書いてください。付箋、もったいないなって思うかもしれませんが、でも、もったいないのは、付箋をもったいないがって、やるべきことができないほうがもったいないので、こういうときは太っ腹に使ってください。
- ③ 三つ目、単語で書いてください。いろいろと、私はゆで卵が好きなので、でも、半熟っていうのは食堂にないから、これを提案しますみたいな、そういう文章で書きがちかもしれませんが、その辺はしゃべるときに補足すればオーケーなので、単語で書いてください。単語でばしっと。
- ④ 四つ目です。これはすごい変なコツなんですけど、付箋って、上をのりにしたときに、下から上に剥がさない。付箋使いをマスターしていただくためには、左から右に、もしくは右から左に

剥がすのが実はいいんです。何でかというと、上から下にめくっちゃうと、くるんってなってしまっって、後で張るときにくるんくるんくるんばかりになるので、それを防ぎたいと思います。ここができれば、付箋使いのマスターでございますね。

では、一人で5分間考えていただきます。結構苦しいかな、5分。3分にしようか。3分間黙って、できるだけ多くの付箋を使い、できるだけ多くの一人ブレストをしていただきたいと思います。いいですか。もう一回言います。テーマは食堂のメニューではないですから、「地域の幸福度ををはかるアイデア」を書いていただきたいと思います。

では、3分測りますね。様子見て、少し延ばすか決めたいと思います。用意スタート。テーマを忘れた人のために前に出しておきました。「地域の幸福度ををはかるアイデア」を出してください。どこに着目しますとかね。いや、さっきの高校生の発表にすごいヒントが詰まっていたよ。矢上高校の発表をよく思い出してね。もしくは、江津高校の高校生の発表を思い出してくださいね。アンケートってたくさん書いてる人いますけど、アンケートをとるっていうのは方法ですね。方法ではなくって、どんなことについてアンケートをとりますか。何という項目をあなたなら考えますかっていうふうにね。

じゃあ、また一人の時間にしましょう。今回、方法じゃなくって、何について問えばその地域が幸福だとはかることができますかというテーマです。

じゃあ、一応3分とりました。でも、まだまだ一人で考えるのは難しそうですから、ヒントを言いますね。ヒントは、さっきちょっと前のほうでも言ったんですけども、高校生の発表を思い出してください。矢上高校さんは、高齢者の健康に着目したんですよ。それって、地域の幸福度ををはかる指標にはなり



得ませんか。また、江津高校さんのほうは、放課後、夏休みか、夏休みの小学生の学習支援に着目したんですよね。それはどうでしょうか。二つ考えてみると、高齢者がいかに健康な暮らしをしているかを一つ、項目として挙げてもいいかもしれません。また、小学生の学習の充実度みたいなものも挙げられるかもしれません。ほかには何かないだろうかということで、あと、2分だけ一人で考えてみましょうか。

では、2分間やってみましょう。

買い物ができるとかね。買い物に困らないとかね。だから、皆さんの自己紹介にも実はヒントがいっぱい詰まっていたんですよ。すごいこと聞いているよね。これもすごく大事だね。

あと10秒。では、時間がたったようです。結構、一人でやるのってつらいですよ。私、途中で横でしゃべるから、ああ、なるほどと思って、また人の話を聞いてやれたかもしれないけど、一人って結構つらいんで、これ、今から、せっかくのグループですから、グル

ープディスカッションしながら深めていきたいと思います。

【チームで考える】

このグループディスカッションで使うのがブレストという方法です。大学生はみんなブレスト一回はやってると思うので大丈夫だと思いますけども、ブレインストーミングの略です。ブレインは脳だよね。ブレストのコツというのがあります。今、皆さんの手元には自分が考えたアイデアが、1枚かもしれないし、ゼロ枚かもしれないんだけど、何枚かあるわけですよね。その何枚かを皆さんのチームの真ん中のところに張り出してもらおうと思います。とすると、こんな意見言うのちょっと恥ずかしいんじゃないかなとかいうのがあるかもしれません。でも、ブレインストーミングでは、こういうルールでやります。たとえそのアイデアがちょっとおばかかもしれないけども、誰も批判する人はいません。批判は厳禁です。「それ、くない？」っていうのはだめです。全然ありません。どんな考えでもありです。というわけで、自由にやっていただいてオーケーです。



なぜかという、そのアイデアがすごく何か練られたものかどうかよりも、量が欲しいんです。普通、学校だと逆のと言いますよね、量より質だよと。でも、ブレストだけは別で、質よりも量、これ、後で最後に種明かしをしますけども。また、便乗して、後から付箋を書いて出してもらおうこともオーケーです。ああ、それ、すごいおもしろい、それって、じゃあ、こんなのもあるよね、ばしんっ

て、後から書いて出すこともオーケーです。
いいでしょうか。

この作業するときに、ちょっと机の上の環境を整えていただきたいなというふうに思います。皆さんの机の横に、こんな大きな模造紙があると思います。この模造紙を机の真ん中に置いてプレストを始めていただきたいのです。

では、模造紙、よく見ていただくと、薄く透けて見えてませんか、何かが、2枚目には、ちょっと五角形のものをつくっていただきました。

30分間で、後にこの2枚目を完成させてほしいんです。この2枚目、何がしたいかというと、町の幸福度チェックシートみたいなもので、例えばここに高齢者の話が出てくるかもしれない。ここに別のものが出てくるかもしれません。グループ6人ないし5人の出した意見を五つにまでまとめ上げてほしいのです。いいですか。1枚目の何も書いてない模造紙は、まず、グループの中でどんな意見が出るのかなということで、それ用の作業に使ってください。最終的に、今から30分後にはこのチェックシートを前に持ってきてもらいます。2枚目だけ前に提出となります。約30分間って言いましたけど、約30分で大丈夫ですか。



この五角形の先に四角があるでしょう。この四角に当てはまる言葉をマジックででっかく書いて、前に持ってきてもらおうと。大学生は、やり方わかりましたか？出してほしいもの。ちなみに、2枚目にこんな長方形は親切

には描いてないですから、そこはそれ、うまくやってください。大丈夫かな。あとは、大学生のファシリテートに任せたいと思います。時間は30分間。では、よろしくお願いします。



【まとめる】

では、一応全てのグループのが出ましたので、前に見に来てくださった方、一旦戻っていただいてもいいですか。ありがとう。

改めて、ざっと見ますと、結構苦しんだ割に皆さん、目のつけどころがとてもいいなと思いますね。2班は英語で書いてくれてますけどね。今回は、時間の都合で全ての班に発表してもらおうっていうことができないので、例えばこの指標に至るまでの過程っていうのが本当はすごくおもしろいのがあったんだと思います。例えば例えば、「人間関係」、何でこれを考えたんだろうか。どうしてこの人間関係って言葉に行き着いたんだろうか。多分それぞれの努力ですごくディスカッションしたと思うし、この指標として立てるのが難しかった言葉もあるんじゃないかなと思います。

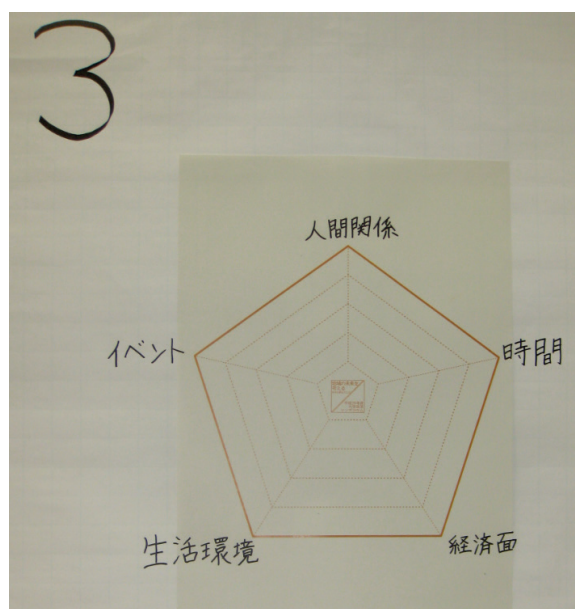
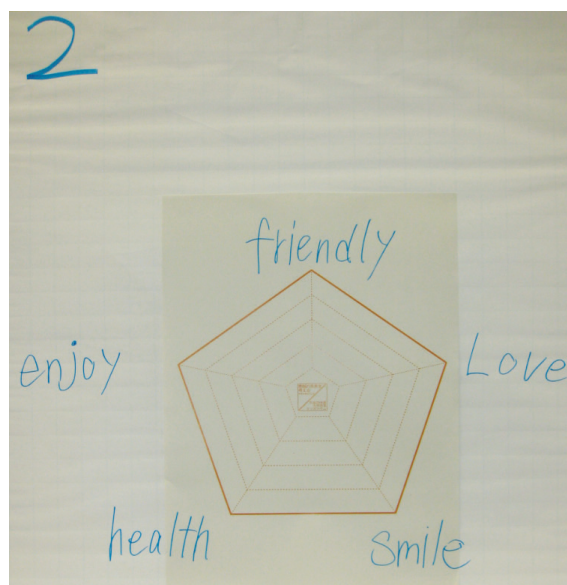
8班、「人それぞれの楽しみが重要である」っていうふうに書いてあるのと、隣の7班、実は「娯楽」っていうのも必要なんじゃないか。それって、とても考えたんだなと思います。幸福度の指標っていうと、やっぱりつついitいいこととか、社会的にいいことみたいなところに落ちつきがちなんだけど、実は毎日毎日の楽しみがないと、つまんないで

すよね。としたら、「娯楽」っていうのも必要なんだっていうところにたどり着けたんだらうなというふうに思います。

あと、5班のところに「経済」、「経済」はほかのところにもある。4班にもありますね。3班にもありますね。いろんなところが「経済」についても考えてくれました。自分の地域のところでしっかり「経済」が回ってるかどうか、もしくは経済的に豊かかどうかということですよ。そういうような指標も必要で、重要なことなんじゃないかなと思います。

あとは、「地域愛」とか地域に対する、どこだったっけな、誇り、「地域の誇り」ですね、そういったものも、やはりこの場所が幸せかどうかというのを考えるときには、ここに住んでてよかった、だって、ここが自慢なんだって言えるのはとても重要です。きょうの皆さんの自己紹介カード、わざと、「ほにゃららが自慢」、「すごい、魅力のどこどこ町」みたいなところにしてもらったのは、このブレストで少しヒントになるかなと思ってつくったものでした。

こんなふうに考えてもらったんですけども、幸福度の意味を少し考えたいと思います。幸福ってどういう意味があるんだろうかということだったんですけど、幸福度という言葉 皆さん、聞いたことがあったと思います。実際に使われている幸福度の指標として、例えばブータンという国では国民総幸福量というものを使っているというのは、ニュースなどでも見たことがあったんじゃないでしょうか。例えば、その中では、大きく次の九つの領域の内容を問うてます。心理的な幸福、健康、教育、文化、環境、また、コミュニティー、よい統治、生活水準、自分の時間の使い方。皆さんのブレストの中で出てきたことととても通ずるものがあるんじゃないかなと思います。幸福度ランキングというのが書籍で出ています。どどこど県が一番幸福みたいなこと。そういったところでどういう指標が使われてるかということ、やはり健康、文化、仕事、生活、



教育の5分野で構成されているということです。これは確かに一つの正解で、皆さんのがかなり正解に近かったということをあらわしてるのかもしれませんが、問題はそこではなく、なぜ社会は幸福度に着目するんだらうかということなんですよね。例えば、今まで国がどれだけ豊かかということを話すときには、GDPとかGNPとか、どのぐらい経済が潤ってるか、経済的に豊かかということを問題にしてきました。一方で、そうではなくて、その国にいて、どれだけ幸福なのかが大事だよってというような風潮になってきているってことです。ですので、どうしてこれを着目するんだらうかということを考えるのも、未来を考える上ではとても重要なことだというふうに言えると思います。

誰もが幸せでありたいと思っていますよね。ならば、それが実現する社会像を全員が考える必要があります。誰かが考えてくれる未来に対して、自分が追う、追従していくのではなく、自分もその未来づくりの中で考えていく必要がある。なぜかという、それ、人それぞれ違うからです。そんなことを考えていただけるというきっかけになればというふうに思います。

【もう一度、自己評価をしてみよう】

一方、本日はこのワークショップを通して、自分が、ここが伸びた、もしくはできることに気づいたってということがあれば、それをルーブリックという形に落とし込んでいただきたいと思います。では、改めてピンク色の紙を取り出してみてください。では、少し書く時間をとりしたいと思います。

まだ書いてる人がいるかもしれませんが、どうですかね。もう皆さん、すごい真剣に感想を書いてくださっていて、いや、後で読むのが楽しみです。

では、もう少しまとめをしてみましようね。今のルーブリック書いてもらったことについ

て少しお話をしたいと思います。まだ書いてる人は手を動かしながら聞いてください。

【協働と多様性】

なぜ、そもそもの話なんですけど、先ほど言いましたね、そもそもの言葉、とても大事なことで、面倒くさがらずに使ってみるといいと思いますよ。

では、協働と多様性の意味を考えてみたいというふうに思います。今回、自分一人でやったときのブレストのときとチームみんなで考えたときとは、やっぱり違ったと思うんですよ。それについてお話ししますね。例えば、複数人でやるブレストの場合、何か普通のアイデアが笑えるアイデアになったりとか、笑えるアイデアから、全然思いつきもしなかった、つまり、一人だと思いつけなかったような創造的なアイデアに出会うことがあります。または、実際それを体感したと思います。少なくともどのチームも非常に笑顔でやっていたので、すごく笑えることがあったんじゃないかなと思います。そうすると、やっぱり考えることって楽しいと思います。一方で、一人で考えてるのって、すごくつらかったと思います。そんなふうに、協働することによって初めて新しい考え方が生まれてきたり、それぞれの考え方が深まる。だから、協働する必要があるということを知っていただけたのではないのでしょうか。

【地域を学ぶ意味】

あと、地域を学ぶ意味についても、今日はパネルディスカッションなので、いろいろな先生方がお話をされていましたが、何で私たちは地域について学ぶんだらうか。島根大学では一応こんなふうな流れで学びを考えています。縦のラインは、専門知識の浅いから深いところまで、横のラインは、地域との密着度が低いところから高いところまで。これまで、例えば学部、学科では、地域との密着度が低く、でも、専門知識が高いことを習っていたのかもしれませんが、一方で、

それがどういうところで役に立つんだろうかっていうことを考えると、やはり地域のことを学ぶ必要があります。

ただ、今回の学生さんの発表の中でもあったんですけども、何で地域で学ぶんだろうということは常に意識をする必要もあると思います。また、それには、最初からこんなふうに地域できらきら輝けるっていうようなところにはいけないと思います。初めは、地域のことを知ってみる、交流してみるっていうところから始める必要があると思います。その後、専門的な知識を少しずつつけながら、それってどういうこと、先ほど出てきましたね、そもそも、それってって考える、そのための知識をつけていく必要があると思います。また、その後、実行、挑戦って書いてありますけども、じゃあ、自分はこうする、こんなことにチャレンジする、地域でっていうふうに。ちょっとずつちょっとずつの段階を踏みながら、やはり自分の専門性に基づいて地域に働かせることができる人材を育成していく必要があるんじゃないかなというふうに本学のほうでは考えています。

皆さんの資料の中に「しまね大交流会」のチラシも入れさせていただいたんですけども、11月18日に、じゃあ、地域でどんなチャレンジが行われているんだろうかということを知るような大きいイベントを大学主催でやってみようということで、企画しています。高校生の皆さんは、自分の進路を考えるっていうことで手いっぱいって思ってるかもしれませんが、いろんなことを知った上で考えるのと、何も気づかないで、ネットの情報だけで考えるのとでは、大きな差が出てくるんじゃないかなと思います。そういった意味で、今回このグループでいろんな人と話し合いをしたこと、また、その中で自分ができるようになったことを大事に、今後の進路選択につなげて行ってほしいなというふうに思います。

以上で私と中野が担当したワークショップについては、内容は全て終了です。長時間になりましたけども、ありがとうございました。



<参加高校>

島根県立江津高等学校、島根県立江津工業高等学校、島根県立矢上高等学校、島根県立浜田高等学校、島根県立浜田商業高等学校、島根県立益田高等学校、松江市立女子高等学校、開星高等学校（8校から35人）

<参加大学>

島根大学COC人材育成コース（5学部22人）

